

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／福井 典代

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

家庭科は生活を総合的に捉える学問である。しかし、家庭生活に目を向けると、非科学的な情報に惑わされることが多い。そこで本研究では、科学的な判断能力を育成するための教材を開発して、授業実践を行いたい。科研費を申請するまでに、教材に関する予備実験を行う予定である。

2. 点検・評価

基礎実験を行ったうえで、「科学的な根拠に基づく判断能力を養う家庭科教材の開発」という題目にて、科研費申請を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ① 大学院の定員充足に向けて、大学訪問を2回以上行う。
- ② 教育支援講師・アドバイザーの派遣先(小・中学校)において、家庭コースを紹介する。

2. 点検・評価

- ① 大学院の定員充足に向けて、四国大学の2人の教員の研究室を2回ずつ訪問した。
- ② 教育支援講師・アドバイザーの派遣先(徳島市佐古小学校)において、家庭コースを紹介した。
- ③ 学部卒業生(小学校教諭)が研究室に来た際に、大学院進学を勧めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 学生が主体的に授業に参加できるように、講義科目であっても実験・実習内容を取り入れた活動を行う。
- ② 2名以上で担当する授業について、講義内容の連携を密にする。
- ③ 1年生のクラス担任として、学校・生活全般について相談に応じる。
- ④ 卒論・修論指導の学生に対して、進路の相談に応じる。

2. 点検・評価

- ① 学生が主体的に授業に参加できるように、「被服学概論」、「初等家庭」、「初等家庭科教育論」、「衣生活学」の講義科目の中で、実験・実習を積極的に取り入れた。
- ② 「初等家庭科教育論」では、15回の前半部分の授業を1つの教室で実施している。担当教員2名とも必ず参加して、授業内容を理解してから後半の2つのクラスに分かれて授業を行った。
- ③ 1年生のクラス担任として、研究室において、全員の学生(9名)と個別の面接を行った。また、全員参加した食事会を2回開催した。
- ④ 卒論指導の学生3名と修論指導の学生1名から進路について相談を受けた。模擬授業や面接指導を行った結果、4年生2名とも京都市小学校教諭と兵庫県中学校教諭として正式に採用された。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ① 従来から研究を進めている「上衣の見え方に及ぼす色の影響」をまとめて、日本家政学会で発表する。
- ② 従来から研究を進めている「小学校家庭科へ実験教材を導入した成果と課題」をまとめて、日本家庭科教育学会で発表する。
- ③ 科学研究費補助金の申請を行う。

2. 点検・評価

- ① 「上衣の見え方に及ぼす色の影響」という題目にて、日本家政学会で発表した。
- ② 「小学校家庭科へ実験教材を導入した成果と課題」という題目にて、日本家庭科教育学会で発表した。
- ③ 「科学的な根拠に基づく判断能力を養う家庭科教材の開発」という題目にて、科学研究費補助金の申請を行った。
- ④ 「通信販売における女性用フリーサイズ衣料の実態調査」を日本繊維製品消費科学会に投稿し、審査の結果11月に論文が掲載された。
- ⑤ 「小学校家庭科へ実験教材を導入した成果と課題—『初等家庭科教育論』における授業内容の改善—」をまとめて、鳴門教育大学授業実践研究誌に掲載された。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

各委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

就職委員会委員、教職実践演習実行委員会委員として、本学の運営に貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ① 教育支援講師・アドバイザーに登録し、地域・社会との交流・連携を行う。
- ② 徳島県消費生活審議会委員として、任務を遂行する。
- ③ 公開講座の講師として任務を遂行する。
- ④ 日本家庭科教育学会四国地区会会長として任務を遂行する。

2. 点検・評価

- ① 教育支援講師・アドバイザーに登録した。徳島市佐古小学校でのTシャツの藍染め(約120枚)と、徳島県中学校技術・家庭科研究会の全国中学生創造ものづくり教育フェア徳島県予選大会の審査員を務めた。
- ② 徳島県消費生活審議会委員として、任務を遂行した。
- ③ 公開講座の講師として任務を遂行した。
- ④ 日本家庭科教育学会四国地区会会長として任務を遂行した。
- ⑤ 文部科学省受託事業「消費者教育推進のための調査研究事業」運営指導委員会の委員として、任務を遂行した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

卒論指導した学部4年生が、京都市小学校教諭と兵庫県中学校教諭(家庭)として正式に採用された。